

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「笑顔がすてき いいこといっぱい 下和泉」～ ふれあい 認め合い 学び合い ～
 ○自ら課題を見出し、共に学び合うことで基礎・基本を身につけ、主体的に学ぶ態度を育てます。【知】
 ○進んで自分らしさを発揮し、自分のよさを伸ばせるとともに、他の人との違いも認め合うことができる子どもを育てます。【徳】
 ○健康や安全の大切さに気づき、心身ともに健やかな子どもを育てます。【体】
 ○共に学び合い、地域社会の一員として、より豊かな人間関係を築ける子どもを育てます。【公】
 ○様々な社会の変化に柔軟に対応できる子どもを育てます。【関】

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

自己決定力から自己有用感へ ～ あこがれ 夢中 自信 ～	具体化した資質・能力
自己有用感からコミュニケーション能力へ ～ 自認 他認 尊重 ～	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の目指したい姿をもち、自分で(自分たちで)決め、夢中になる。 ○自分で(自分たちで)決めたことを最後までやり通す。 ○互いの思いを伝え合いながら他者と関わり続ける

中期取組目標

○「子どもにゆだねる」という種をまき、自分で(自分たちで)決めて、夢中になって主体的に取り組む経験を積み重ねます。
 ○自分で(自分たちで)決めたことを最後までやり通し、本当の自信、プライド、自己有用感の根を伸ばします。
 ○芽生えた自己有用感をもとに、他者との関わりをもち、自他ともに認め、尊重する姿勢と関わり続ける意欲の幹を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
本の好きな 子どもの育成	①子ども一人ひとりが自分の読みたい本、自分の学習に必要な本を自ら選べるようになる選書の力を高めるとともに、読書を通して語彙を増やし、一冊を読み通す力を身につける。 ②図書館司書との連携を深め、子どもが行きたくする学校図書館の環境整備に取り組む。
担当	経営推進

学力向上に関わる本校の状況

○横浜市学力・学習状況調査の結果を見ると、この3年間で学習意識が高くなって来ていることが分かる。各学年、どの教科もテストの結果は市平均を下回ってはいないが、国語に関して言えば学力を伸ばした児童の割合は80%を超えている(R7年度3年・5年・6年)。

○読書活動を通して、
 ・語彙力
 ・文章を読み通す力
 ・読解力
 ・思考力
 ・非認知能力
 これらの向上を図ることを目指していきたい。また、読んだ本を薦め合ったり、感想を伝え合ったりすることで、読書を通して人とのつながりを深めることも期待できる。

○昨年度末のアンケート結果
 本が好き…83%

本を読む理由
 面白い…50%
 ためになる…16%
 調べたいことがある…14%
 友達が読んでいた…6%

以上の結果から、昨年度の取組を通し、読書の良さを子ども自身が感じ、自ら読もうとしている姿が浮かび上がってくる。一方で、
 読書が嫌い…4%
 1か月で1冊も読んでいない…12%
 という結果も見られた。

今年度の目標

○読書の時間の確保、学習における図書の活用を意識的に行い、本の読み方を工夫して読書の質を高める。
 ○読みたい本・使える本を増やし、イベントや掲示に力を入れ魅力的な学校図書館をつくる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	【教員からの働きかけを中心に】 <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成した各教科単元ごとの図書活用表を全教員で共有し、どの教科・単元で図書を使った学習ができるのか年間の見通しをもつ。 ・小学生新聞を活用した取組を、高学年や図書委員会を中心に行う。 ・読書タイムの時間を確実に確保し、Yomokkaも活用しながら継続して読書ができる環境を整える。 ・「本友ポイントカード」を作成して、自ら本を選び、様々なジャンルの本に触れることができるようにする。 ・お話し会の読み聞かせのほかに、学校司書や司書教諭、担任による読み聞かせを定期的に行う。 ・夏休みに「読書マラソン」を実施し、親子で本を読むように働きかける。
下半期	【児童からの働きかけを取り入れて】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館指導計画をもとに、各教科1回以上図書を活用した授業を計画し、実践する。 ・学習の成果物を図書館に掲示する。 ・読書月間を活用し、図書委員会児童による企画(読み聞かせ・ブッククイズラリー・読書郵便等)を行う。 ・全校でビブリオバトルに取り組み、自分のおすすめの本を友達に紹介する。 ・教員が他クラスで自分のおすすめの本の読み聞かせをする。 ・年度末に一年間の読書の足あとを振り返る。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
よりよい集団意識	①子ども一人ひとりが自分のよさや強みを発揮し、それを互いに認め合い、誰もがここに笑顔で過ごすことができる学級・集団を目指す。 ②学級活動(話し合い・係活動や当番活動)を通して、主体的に学習・活動できる学級・集団を目指す。
担当	児童指導

豊かな心に関わる本校の状況

学校や友達が好きな児童が多く、休み時間や放課後なども活発に遊んでいる。一人である児童が少なく、誰かと関わりながら過ごすことができている。お互いを思い合い、声をかけ合っていることもあるが、どちらかと言うと相手がだれか重要ではなく、自分が楽しめるという様子も見られる。実際に口喧嘩や手が出してしまうことも多い。相手の気持ちを考えながら、関わりを大切にしながら過ごすことには課題を感じる。「自分の気持ちを伝える」「相手の思いや考えを聴く・考える・受け止める」こうしたスキルを丁寧に指導していく必要がある。まずは、そのスタートとして「他者意識を育てるようにすること」を大切にしていきたい。以前の本校では、そうした取り組みを考えても家庭との連携や協力が難しい実態があったが、現在の状況であれば家庭とも連携しながら進めていけると感じている。ソーシャル活動でスキルを学び、係活動や当番活動で実際に他者と関わり合いながら力を伸ばしていく。そして集団を練り上げていく「行事」も今後見直していき、より集団として高めていけるようにしたい。

今年度の目標

①職員で本校の実態を把握し、課題にアプローチするために係活動を充実させ小集団の中でスキルが学べるようにする。充実のさせ方を学ぶ。
 ②各学級で行っている集団を高める方法や手立て、友達と楽しく関わり合える活動を共有し、それをそれぞれの学級でも試せるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<ul style="list-style-type: none"> ・部会プラン報告会にて、本校の状況や今年度の目標について職員と共有する。今後部会で行いたい取り組みについて説明する。 ・特活部を中心に、係活動を進めていくポイントや充実のさせ方を発信してもらう。その係活動はあくまでも、育てたい力を伸ばす手段であることを忘れずに活動する。 ・各学級で行っている集団を高める方法や手立て、友達と楽しく関わり合える活動をまずは各先生方から集める。全職員で共有し、職員の集団づくりの引き出しを多くしていく。きつと教科にもまがってくると考えられるので、それも共有していく。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ・後期の係活動の取り組み方、工夫などを共有し、さらに活動を高めていく。 ・各学級で行っている集団を高める方法や手立て、友達と楽しく関わり合える活動の成功例を集め、下和泉の財産として活用できるようにする。学校をあげて取り組んでいくとよい活動があれば取り上げ、来年度さらに学校として活用していく。 ・係活動や集団を高める活動を通して、児童が高まっていった時にさらに集団を練り上げていくために必要だと思われる行事や総合の活動も見直していく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな体験的学習	①子どもの思いや発想を生かし、子どもが夢中になれるような体験的な学習を各教科で取り組みながら、自ら学ぼうとする子どもを育てる。 ②集団で学ぶよさを大切にしつつ、個々の学習力を高めるように、意図的・計画的に授業を計画するため、教職員が連携する。
担当	児童指導

健やかな体に関わる本校の状況

①なかよしベアの活動
 ・コロナ禍前までは、毎週決まった曜日の中休みに一緒になかよしベアで遊ぶことが決まっていた。遊びを考えて異学年交流する児童もいれば、ただ同じ時間を過ごす児童もいた。新しいなかよしベアのあり方や関わり方が求められている。
 ・これまでに、なかよしベア活動で積極的に取り組んできた児童やお世話をしてもらった、教えてもらったと価値づけられてきた児童は、自分から積極的になかよしベア活動に参加する姿がみられる。
 ・1・6年のなかよしベア活動は入学式から始まり濃い関わりをもつことができる。また、各教員の力量により、関わり方や回数など様々である。

②学力に関わる児童の実態
 ・横浜市学習状況調査の結果から、本校の児童の学力は市平均には及ばず、学力は低い傾向である。
 ・学習意欲が低いわけではなく、学力レベルに沿った授業を工夫して行うことで楽しみながら学習に取り組む児童が多く、日々の教材研究、授業改善を通して資質能力の育成を図る必要性を強く実感している。
 ・日常生活の中で体験して得る知識技能を体験していない児童も中にはいる。そこで学習活動や学校生活でさまざまな体験をして、経験を得ることができるように学習活動を工夫し学習が身近になるように工夫していく。

今年度の目標

豊かな体験的学習や異学年交流を通して、学校生活を充実させる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもが夢中になれるような体験的な学習 ・運動会における団体演技 ・下級生を思いやり上級生への憧れをもてるような手立てを考える ・学習の出会い方を工夫 ・学習に興味をもたせる。相手意識を持ったり、実生活と結び付けて学びを深めたりすることで、自ら意欲を高める。 ・自己決定 共同的な学びができるような仕掛けづくりの方法を職員間で共有していく。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> ②集団で学ぶよさを大切にしつつ、個々の学習力を高める ・授業を見合い、教員の授業力を向上させる。 ・各先生方に、授業中の子どもへの声かけをどのように行ってきたか、またそのときに何に意識して価値づけたり指導してきたのか聞き、まとめる。 ・個別最適な学びを目指すための具体的な方法を職員間で共有する。 <p>振り返りのもとに各学年で取り組みたいことや深めたいことを掘り起こして活動していくようにする。</p>